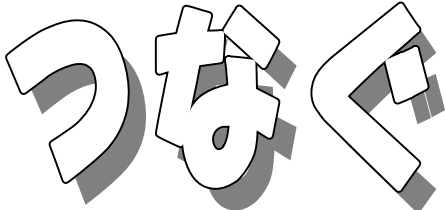


さいたま新都心郵便局過労 自死事件の責任を追及する会		第 2 号	2013.10.28
☆Tさんの 思いを「つなぐ」 ☆仲間を「つなぐ」 ☆いのちを「つなぐ」		東京都千代田区外神田6-15-14 外神田ストーク502号 郵政共同センター内 TEL:03-3837-5391/ FAX:03-3837-5392 メール: postunion@pop21.odn.ne.jp	

Tさんの「自死」の責任を徹底して追及しよう

立ち作業、実態を無視した時間管理、威張る管理者、正論じみたお説教、すべてが自己責任……。いまどきどこの郵便局も楽ではありません。でも、さいたま新都心局は働きづらさのマーケットのようです。

新都心局の幹部・管理者の皆さんは、自分の子どもに「この現場で働いてみなさい！」と胸を張って言えるのでしょうか？

Tさんはアルバイトとして働いていた岩槻郵便局で勤務態度が良く、勧められて採用試験を受験、本務者となって力を発揮していました。同僚からは「優しくとても親切だった。」と思い出が語られるような職場生活が21年たった時にさいたま新都心局への異動が命ぜられました。

明るく元気だったTさんが変わっていききました。大宮の地図を買ってまでなじもうとしたその1年9ヶ月後には「抑うつ状態」との診断を受け最初の病休となります。復帰したものの再び病休、復帰、3度目の病休。そして2010年の7月に復帰しながら半年足らずの12月8日に亡くなりました。なんとしても完治したい、働き続けるぞと力をつくした日々が終わりました。

直前の12月6日には自宅のお風呂の中で「えーい、しっかりせい！」と自分の頬をたたいていたのに、お連れ合いと12歳、11歳、10歳の3人のお子様を残して世を去りました。どんなに無念だったのでしょうか。

Tさんの病の発症と死は、職場の異常な作業管理と抑圧的労務管理にあること、罹病者に対する不適切な対応にあることは明らかです。すでに3人の弁護士による弁護団が作られ訴訟準備が進められています。ご遺族と弁護団の申請

により、さいたま地方裁判所は局側の証拠隠滅の恐れがあることを認め、4月2日、裁判官による証拠保全の手続きが取られました。

6月7日には物心両面でご遺族を支え、ともに会社の責任を追及するために本会「さいたま新都心郵便局過労自死事件の責任を追及する会」を結成いたしました。9月24日には武蔵浦和コミュニティセンターにて集いを開催し郵政版トヨタ方式の問題点についての学習を行いました。この時の弁護士の講演の一部を会のホームページからご覧いただけます。

これまでに個人会員84名、団体19のご協力をいただいています。より一層のみなさまのご協力をいただきますことを切にお願い申し上げます。

責任を追及する会のホームページ

<http://www.ne.jp/asahi/post/union/karouzishi/>

さいたま新都心郵便局過労自死事件 の責任を追及する会

★年会費 個人2000円／団体6000円

★ゆうちょ銀行振替口座

00180-2-386354

さいたま新都心局の責任を追及する会

Tさんの奥さんの訴え

私の夫は、平成22年12月に職場である当時の郵便事業会社さいたま新都心支店の4階から自分から落ちました。51歳でした。郵便屋さんといわれる夫は20年以上岩槻郵便局というところで働いていましたが、平成18年5月、さいたま新都心へ異動になりました。そのとき夫が「やばい、辞めるかもしれない」「新都心だよ。一番行きたくないところだよ」と言っていたのを今でも覚えています。それでも地図を購入して早く道を覚えようとする姿も見ました。なんとか慣れようと努力をしていました。

しかし46歳という年齢で大規模な局、ノルマや時間の管理、人間関係の希薄などあまりにも前の職場との違いに疲れきってしまったようでした。本来明るく健康な夫が、4年の間に3回も病気休暇を取る状況になってしまいました。「とにかくきつい。上から『ミスるな！事故るな！残業するな！』と言われて毎日頭のはげる思いだ。」と言っていました。自分の能力に合ったところに転勤したいと夫は毎年職場で出す意向調査で転勤を希望していました。結局希望はとおらず、最終的にはさいたま新都心で亡くなりました。

亡くなる当日の朝、私は駅まで車で送って行き、駅の階段をお互いに見えなくなるまで手を振っていたのですが、それが私の最後に見た夫の生きている姿になってしまいました。それからは自分を責める毎日でした。辛いのをわかっていたのに助けてあげられなかった。「辞めていいよ、私が頑張って働くから大丈夫だよ。」と言ってあげれば夫は死なずにすんだのではないかと、みんなに優しく親切だった夫の代わりに私が死ねばよかったとも思いました。

そんな中、仕事が原因で夫は死んだのではないかと、さいたま新都心に行かなければ病気になるなかったのではないかとこの思いもありまして、助けを求めるような気持ちで郵政労働者ユニオン（現：郵政産業労働者ユニオン）へメールをしました。夫の死後4ヵ月後のことでした。それから途中何度も立ち止まることもありましたが、応援してくださる方々のおかげで先日6月7日に「さいたま新都心郵便局過労自死事件の責任を追及する会」を立ち上げてくださいました。とても嬉しく思いました。

このことは私たち家族だけでなく、今現在働いている皆さまたちが健康で働ける職場環境に近づけることができるのではないかと思います。二度と私のようなつらく悲しい思いをする人を出してほしくない。あたりまえのように毎日元気に「ただいま」と家族が帰ってこれるような世の中であってほしいと願います。そしていつか、子どもたちに「まじめに一生懸命働くことはいいことだ」と言える日が来ればいいなと思っています。

最後になりますが、私だけではどうしても限界があります。どうか皆さまのお力を貸していただけたらと思います。一人でも多くのご協力をお願いしたいと思います。